

生体牛の評価の試行結果(コスタリカ)【暫定版】

生体牛のリスクの総括(コスタリカ)

<侵入リスク>

	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-
生体牛	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
肉骨粉	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
全体	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる

<暴露・増幅リスク>

暴露・増幅リスク	高い	中程度
1986	2001	2007

<サーベイランス>

2000年頃から主にパッシブサーベイランス開始

パッシブサーベイランスは、「BSE様症状を示した牛」、「歩行困難牛」、「農場等で死亡した牛」および「『管理されたリスク国』及び『不明のリスク国』から輸入された牛」を対象に実施されている。

BSE認知プログラムは2000年より存在している。

母集団数 約136万頭(全月齢) (雌牛 2歳以下:30.7万頭、2歳以上:64.9万頭 雄牛 2歳以下:25.7万頭、2歳以上:12万頭、繁殖:2.5万頭)

サーベイランスの成績					
年次	通常と畜牛	死亡牛	不慮の事故による と畜牛	臨床的に 疑われる牛	合計
2005	1	17	54	28	100
2006	0	30	56	20	106
2007	0	23	49	12	84

生体牛の侵入リスク(コスタリカ)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書						
		貿易統計			35			35
	欧州(低汚染国)	回答書						
		貿易統計			80			80
	米国	回答書			145	155	0	300
		貿易統計		122	181	69	4	376
	カナダ	回答書						
		貿易統計		8				8
	その他(メキシコ)	回答書			47	60		107
		貿易統計						
	合計	回答書	0	0	192	215	0	407
		貿易統計	0	130	296	69	4	499

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算
暴露要因となつた可能性のある輸入牛※	英国												
	欧州(中程度汚染国)												
	欧州(低汚染国)												
	米国					145	0.01	155	0.00	10	0.00	310	0.02
	カナダ												
	その他()					47		63				110	0.00
	合計		0	0.00	0	0.00	192	0.01	218	0.00	10	0.0002	420
		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる			

※ 回答書に基づき、リスク考慮対象外と考えられる頭数は除外した数字を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となつた可能性のある輸入牛については、加重係数を設定した期間の輸入頭数のみを記載している。

肉骨粉の侵入リスク(コスタリカ)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書						
		貿易統計			5			5
	欧州(低汚染国)	回答書						
		貿易統計						
	米国	回答書						
		貿易統計				622	2,402	3,024
	カナダ	回答書						
		貿易統計				73		73
	その他()	回答書						
		貿易統計						
	合計	回答書	0	0	0	0	0	0
		貿易統計	0	0	5	695	2,402	3,102

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計		
		トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	
暴露要因となつた可能性のあるMBM	英国													
	欧州(中程度汚染国)													
	欧州(低汚染国)													
	米国													
	カナダ													
	その他()													
	合計		0	0.00	0.0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
			無視できる		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる			

注) 輸入実績及び暴露要因となつた可能性のあるMBMについては、加重係数を設定した期間の輸入トン数のみを記載している。

生体牛の暴露・増幅リスク（コスタリカ）

○飼料給与

2001年 反すう動物由来のたん白質等の反すう動物への給与禁止。

○SRMの利用

データなし。

○レンダリングの条件

データなし。

○交差汚染防止対策

飼料製造施設は全て混合施設で、交差汚染防止対策としてはライン洗浄を実施。

<暴露・増幅リスク>

	飼料給与の状況	SRMの利用、レンダリングの条件、交差汚染防止対策	判定
1986-2000年	特に規制無し	SRMの利用、レンダリングの条件の詳細は不明	高い
2001年-	反すう動物由来たん白質→反すう動物の給与禁止		中程度